

(39) 財務**① 重点的に取り組んだ課題や改善事項等****ア 学内予算編成等**

平成28年度において、基幹運営費交付金が前年度の基幹運営費交付金相当額と比較すると機能強化促進係数（マイナス約18百万円）の影響等から約9百万円の減であり学内予算編成は厳しい状況である。

平成28年度の予算編成の特徴としては、第3期中期目標期間の初年度として年度計画の諸施策を着実に実施するため、「第3期中期目標期間における重点的取組」中心の予算編成を念頭に、学長のリーダーシップの下、全学的な視点から教育研究の活性化や本学の特色を一層伸長する施策等に必要な予算を確保するなど、予算の重点化を図った。

イ 経費の抑制・節減

平成26年12月からの5年契約を締結した総合複写サービスで新たに得られる詳細な利用データを活用し、事務連絡会に定期的に毎月のコスト情報を示すことにより、年間を通じた経費の削減を図った。平成28年4月からタブレット端末を本格導入し、さらにペーパーレス化を推進した。

また、経費の節減及び業務の効率化を図ることを目的とした国立大学法人新潟大学、国立大学法人長岡技術科学大学との共同調達に係る協定（平成23年度締結）に基づき、PPC用紙の購入を実施した。

ウ 保有資産の効率的な活用

物品のリユース情報を全教職員が共有する電子掲示板に開設し、保有資産の有効利用を行った。

エ 資金の運用

収入に伴う事業の実施に関する具体的方策としては、資金の効果的運用を図るため定期預金による運用を行い、運用益を大学運営資金に充当した。

オ 業務の合理化及び効率化

- ・ 財務会計システムによる電子決裁を実施
- ・ 旅費支給における特定定額区間の実施
- ・ 外部資金等の収入契約決議等の担当部局での実施及び収支簿等による担当部局での予算統制

② 新たな取組みが求められる点や特筆すべき点

今後の本学の財政的課題としては、引き続き経費の抑制に努めるとともに、担当各課・室と連携して授業料等の自己収入の確保並びに寄附金や競争的資金の獲得について積極的・継続的な取組を実施することにより、財務内容の改善を図っていく必要がある。